



高齢出産のリスクと 注意が必要な症状

高齢出産とは35歳以上で出産する場合を指します。その前後を境に妊娠確率の低下が加速し、妊娠後は流産や先天性異常の確率も高まります。

不安をおおるつもりはありませんが、母子双方のリスクが高まるのは事実です。また、妊娠を契機に血糖値の上昇や血圧の上昇、甲状腺機能の異常等を認めることがあります。

妊娠中に糖尿病や 高血圧に なってしまったら

済生会茨木病院は、糖尿病・内分泌内科や甲状腺内科があり、連携しながらこれらのリスクに対す

知っておきたい医療のこと

不安要素が多い高齢出産について

リスクと妊娠期の注意点を
知っておこう

るサポートを行っています。例えば糖尿病合併妊娠の場合、食事回数を分割して急激な血糖値上昇を防ぐ食事療法を取り入れるなど、内服薬を飲めない妊婦さんに最適な方法を、専門医と連携しながら判断しています。高血圧や甲状腺機能低下症の場合も同様に、専門医の指示やガイドラインに沿いつつ、安全な治療を並行して進めていきます。

自分の体を

知ることが重要

妊娠中に糖尿病や高血圧を発症した人は、産後に悪化したり、将来また発症したりするリスクが高いといえます。程度に応じた治療を推奨しつつ、定期検診や人間ドク

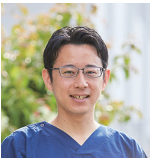
クの推奨、日常のセルフチェックなど、1か月検診の際に丁寧な説明を行っています。

また、妊娠前にお母さんの体が十分に健康で「産める体」なのかチェックするのも重要です。血圧や血糖値はもちろん、感染症の有無や抗体の保持、子宮筋腫を発症していないかなど、事前に知ることで対策を考えられますし、不安を和らげることのできるでしょう。

妊娠中はもちろんですが、妊娠前や妊娠後も私たち産婦人科医や経験豊富な助産師にお任せください。

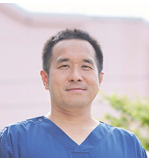
この先生に伺いました

済生会茨木病院 産婦人科



副部長
船内 祐樹先生
YUKI FUNAOCHI

大阪医科大学卒業。神戸掖済生会病院、大阪南医療センターにて勤務。実務経験を経て、平成31年より大阪府済生会茨木病院勤務。



部長
関島 龍治先生
TATSUHARU SEKIJIMA

大阪医科大学卒業。高槻赤十字病院で勤務後、大阪医科大学大学院及び同大学医学研究科外科系専攻にて学ぶ。平成23年より大阪府済生会茨木病院勤務。

公式Instagramは
こちら



SANFUCIJINKA.IBARAKHISASEIKAI

編集部が取材した
同院出産に関する
WEB記事



社会福祉法人 恩賜財団

大阪府済生会茨木病院

〈おおさかふさいせいかいいばらきびょういん〉

茨木市見付山2-1-45

☎072-622-8651

<https://www.ibaraki.saiseikai.or.jp/index.html>